

2018年度

中国留学報告書

実習先：北京師範大学

実習期間：8月27日（月）～1月7日（月）

新潟国際情報大学
国際文化学科
学籍番号：21017027
岡畑亮太

目次

1	留学先及び実習期間	3
2	留学先概要	3
3	留学目的	3
4	留学内容	4
	4 - 1 留学のスケジュール	4
	4 - 2 留学の詳細	5
5	当初の目的および目標への到達度	6
6	反省・課題	7
	謝辞	7

付録

	留学日誌	8
--	------	---

1 留学先及び実習期間

留学先：北京師範大学 漢語文化学院

留学期間：平成 30 年 8 月 27 日（月）～平成 31 年 1 月 6 日（日）

※帰国は 1 月 7 日（月）

2 留学先概要

(1)大学について

北京師範大学は、中華人民共和国の北京市海淀区に位置する。北京市には他に大学がいくつ存在するが、そのなかでも非常に大きな大学である。北京大学、中華人民大学、清華大学、そして北京師範大学といった、北京四大大学の一つとして含まれている。また、多くの学部があり、あらゆる分野の研究ができるため学生にとっては、よい環境が整っている。サークルも数多く存在し、幅広い趣味の他にも留学生交流サークルといった留学生向けのサークルも存在する。

(2)大学で行われている教育について

北京師範大学は、多くの留学生を受け入れる特徴があり、留学生向けに漢語文化学科をもつ。質の高い教育を念頭に中国語教育に力を入れている。クラス分けテストを行うことでそれぞれが自分の学習レベルに応じたクラスに分けられる。初級から上級レベルのクラスがある。教師と相談することで初級レベルに移ることかでき、反対にある程度の実力が認められれば上のクラスにも移動ができる。各クラスで国の偏りなくメンバーが構成され、クラスの数も 20 人程度で適度な環境の中、学習できる。

3 留学目的

今回の留学の目的は、大きく分けて二つある。一つ目はビジネスで通用するレベルまでの語学力の向上である。大学での課題や授業の予習・復習をただ淡々となすだけで、将来社会に出たときに自分の力を最大限に発揮できるか不安を感じた。そのため約一年と半年、大学の講義で学んだ力をぶつける良い機会であると感じた。社会では、英語に次いで中国語も多くの企業によって求められている。中国へ進出する企業や進出を検討している企業において人材をアピールするためにも、語学力の向上は不可欠である。なので、現地で実際に中国語を使って、スムーズに会話ができることを目標とした。

二つ目は異文化に五感を通して、直接触れることである。日常生活を送るなか、他の文化に触れる機会はめったに無い。また、メディアを介して知り得た情報が確かであるかは、みた本人にしか分からない。異文化を理解することは世界にとっても共通の思想である。互いに寄り添い共生するために何が必要であるか。異文化に対して、現地で身をもって経験することで深く理解する。

4 留学内容

以下から留学の内容を記述する。

4 - 1 留学のスケジュール

留学期間中のスケジュールは以下のとおりである。

月	日 (曜日)	午前	午後
8	27 (月)		到着、入寮
	28 (火)	入学手続き	
	30 (木)	クラス分けテスト	
	31 (金)	留学生入学式	
9	3 (月)	授業開始	
	8 (土)		中日学生交流会
	22 (土)	内モンゴル旅行 二泊三日	
	23 (日)		
	24 (月)		
10	1 (月) ~ 7 (日)	国慶節 (休暇)	
	1 (木)	中間テスト	
11	2 (金)	中間テスト	
	12 (月) ~ 17 (土)	修学旅行 江西景德鎮	
	25 (火)	クリスマスパーティー	
12	27 (木)	期末テスト	
	28 (金)	期末テスト	
	1 (金)		終業式
1	4 (金)		終業式
	7 (月)	帰国	

曜日	1	2	3	4
	8:00-9:40	10:00-11:40	13:30-15:10	15:30-17:10
月		读写 Reading	会話 Speaking	
火	读写 Reading	听力 Listening		辅导 Tutorial
水		会話 Speaking	听力 Listening	
木			会話 Speaking	读写 Reading
金			听力 Listening	书法 (書道)

4 - 2 留学の詳細

スケジュールに記載してある各項目の内容は以下のとおりである。

i) クラス分けテスト

漢語文化学院に入る新入生は筆記、リスニング、口頭での試験を受ける。テストの結果によってそれぞれのレベルに応じたクラスに振り分けられる。筆記とリスニングは選択肢4つからの問題となっている。また、口頭試験については簡単な質問に答え、短い文の正しい発音による音読が求められる。

ii) 授業

それぞれのクラスは20人程度で授業を進める。授業内容は主にリーディング、スピーキング、リスニングの授業があり、1日に二から三つほど行われる。そのほかに補習や書道の授業が週に一回行われた。

iii) 中日学生交流会

北京師範大学の日本語学科の学生との交流である。お互いに準備をしてきた出し物の披露や、グループに分かれて一緒に会話をすることで交流を深めた。中国の文化や学生にふれあい、現地での初めての友達づくりにもなる良い機会となった。

iv) 内モンゴル旅行

バスで内モンゴルへ向かう。ゲルに泊まり、乗馬体験、ラクダ乗り体験をした。

v) 国慶節

中華人民共和国の建国記念日である。授業がないため、多くの学生はこの期間を利用して旅行に出かける。

vi) 中間テスト

留学生はリスニング、筆記、口頭による三つの試験を受ける。現地の授業で習った範囲から問題が出題される。テスト数日前には、先生から授業でテストの問題形式について丁寧な説明がある。

vii) 江西修学旅行

毎年、修学旅行が計画され、行き先も違う。今年は江西景德鎮で、多くの留学生はこの修学旅行に参加した。主に陶磁器に関して博物館を見学し、陶器体験も行った。

viii) 期末テスト

テスト形式に関しては中間テストと同様である。

5 当初目的・目標への達成度

今回の留学の目的の達成度について、それぞれまとめる。

i)語学力の向上

現時点で、帰国してから中国語の試験を受験できていないため、具体的な数値は目にできない。しかし、留学後半期の授業にさしかかる頃には、教師との受け答えをしっかりとできた。また、クラスメートとの会話によって語学力の向上を確認することができた。時折、言葉の壁を感じる状況があったが英語やジェスチャー、比喩・例文を使い工夫をこなすことで臨機応変に対応した。現地で伸ばした語学力をさらに向上させるためにも、今後も継続して勉学に励む必要がある。

ii)異文化の理解

中日交流会や修学旅行、友人との会話、それに現地で生活を送ることで異文化に対し、より深く触れることができた。修学旅行では中国の陶磁器に関して、博物館を見学し、陶器体験をした。また、現地の友人と観光をすることで新たな事物や日本との相違点を見つけることができた。

6 反省・課題

約四ヶ月の留学で得られたものは非常に多く、新しい環境、知らない世界で学ぶことは、実りある経験となった。今回の留学では本当に多くのことを学ぶことができた。その学んだことを忘れずに、形として残していきたい。そして、これからも継続して勉学に励み語学力の向上はもちろん、知見を広げることで様々な活動に役立てたい。

謝辞

今回の留学において、北京師範大学漢語文化学院にて指導してくださった先生方、現地で副班主任としてお世話をしてくださった黄微さん、留学までの事前指導・手続きをしてくださった佐藤若菜先生と區先生、その他大勢の関係者の方々に大変感謝しております。今回の留学は、多くの人の方によって実現しました。そして、新潟国際情報大学からいただきました奨学金により、有意義な留学となりました。深く感謝いたします。

付録：留学日誌

8月27日 月曜日 午後
出発 1430 新潟空港
担当 區 建英先生
内容 ・新潟空港で先生と合流 ・新潟から成田まで飛行機で移動 ・成田で乗り換え、北京まで飛行機で移動 ・北京空港で入国審査 ・北京空港から北京師範大学の寮までバスで移動

所感

飛行機の時間、不安が頭をよぎったが現地に着いた頃には、無くなった。四ヶ月悔いなく頑張っていきたい。

8月28日 火曜日 午後
新入生登録
場所 留学生办公室
内容 ・新入生の登録手続き ・学生カード、大学の資料配布

所感

各国の留学生が大勢いた。早く友達を作りたい。

9月22日 土曜日 ～ 24日 月曜日
内モンゴル旅行
ツアー
内容 ・1日目 草原で乗馬体験、ゲルに滞在 ・2日目 砂漠へ移動、ラクダ乗り体験 ・3日目 恐竜博物館を見学

所感

内モンゴルの文化に触れることができた。特に夜は気温が冷え込み、外に出ることができない。

11月12日 月曜日 ～ 17日 土曜日
江西 景德鎮
修学旅行
内容 ・1日目 寝台列車に乗り、出発 ・2日目 中国陶磁器の博物館を見学 ・3日目 三宝国際陶芸村を見学 ・4日目 景德鎮の大学で陶器体験や絵を描いた。 ・5日目 三清山 世界遺産となっている山に登った。 ・6日目 午前中は婺源の中国最美的乡村、午後は江湾鎮を見学 その後、寝台列車に乗り帰宅

所感

この長期旅行のおかげで新しい友達が増えた。友人との会話で語学力が上がっていると実感できた。また、北京とは違う場所へ行くことで中国の文化をより深く知ることができた。



